令和7年度

ゼミナール活動報告

大西ゼミ

● 研究テーマ：労働経済

労働市場において不利な立場にある人々の実態を調査し、発見した課題を通して労働社会について考える。

● 活動日

火曜４・５・６限

● 活動内容

演習Ⅰ（２年生）

（１）ゼミ成果発表会

１２月開催のゼミ成果発表会に向けて、「なぜ、あの地域は給料が高いのか」、「中卒・高卒中退者の就職支援」、「コロナ禍でどうすれば非正規雇用者の雇用と生活を守れたのか」のテーマでそれぞれ研究を行い、その結果を発表した。

演習ⅡA・演習ⅡB（３年生）

（１）個人研究の中間報告

卒業論文についての個人研究の中間報告を行い、ゼミ生同士で意見交換をすることで自身の研究の理解を深めた。

（２）浅草フィールドワーク

江戸時代に存在した弾左衛門について学ぶため、浅草周辺にてフィールドワークを行った。

演習ⅢA・演習ⅢB（４年生）

（１）卒業論文執筆

演習Ⅱに引き続き卒業論文を執筆した。その際に中間報告を行い、ゼミ生と大西先生のフィードバックを受けたうえで卒業論文を完成させた。

尾近ゼミ

【研究テーマ　ミクロ経済学】

【活動内容】

■　演習Ⅰ（2年生）

（１）『ミクロ経済学の力』（神取道宏,　2014,　日本評論社）
当書籍の各章について読み進め、ミクロ経済学の基礎となる部分の知識を身に着ける授業を行った。

（２）スライド作成と発表
各章をゼミ生で分担し、担当箇所についてのスライド作成と発表を行った。
アウトプットと物事の可視化についても学習することができる。

■　演習Ⅱ（３年生）

（１）AIについての学習
複数書籍を用いてAIについての構造や時事を学習した。
実際にAIツールを使用して知見を増やした。

（２）LaTeXによる文書作成
論文作成の際に使用するLaTeXについて学習した。
LaTeXとは学術論文や数式、図などに特化した文書処理システムを指す。

（３）『Fundamental methods of mathematical economics』（Alpha C. Chiang, 1967, McGraw Hill Higher Education）によるミクロ経済学の学習現
代経済学の数学と基礎・応用英語を身に着けた。
卒業論文作成に向けた準備として数理的ツールの知識を学んだ。

（４）時事問題についての討論
日本だけでなく国際的な問題や、AIについての時事問題に対し
教授と生徒全員で討論を行った。

※現在4年ゼミ生がいないため演習IIIの活動報告はありません

尾崎ゼミ

2 年生（後期）

・自己紹介、卒論テーマ決め

・ゼミ生全員と交流するために複数のグループに分かれてグループワーク

・先行研究の収集と読み込み

・集めた先行研究の紹介と今後の計画に関する個人発表

今年のゼミ生は複数のまとまったグループが既に出来ていたので、テーマが近しい者で

はなく仲良しグループが固まらないようにグループ分けを行った。

3 年生

・卒論テーマの研究計画書、序文の下書きに取り組む

・論文の基本的な書き方を学び各々のテーマの先行研究をまとめた

・それぞれのテーマについての話し合い

・個人面談

夏季休暇までにテーマを固め、後期には序文の完成を目指したがテーマの決定はともかく

序文の完成は未達成の者も見られた。

尾崎ゼミ

4 年生

・卒論の執筆に本格的に取り組み、3，4 人ずつ発表、グループワーク

・途中経過報告（2，3 年生も合同で中間発表）

・卒業論文の提出と口頭発表

小野ゼミ

- 研究テーマ：『企業研究』

業界分析・企業分析を通して、会社を研究します。
→会社の経営活動を調べ、理解することで卒業後の実社会に備えることが目的です。

- スケジュール

2 年生：反転授業＋企業研究&発表 (チーム形式)
後期を通して、反転授業・企業発表を 2 回ずつ行います。
・前週の「経営分析」の授業を題材に、担当チームが反転授業を行う。
・担当チームが上場企業 1 社を決め、その企業について簡単に企業研究を行い、発表する。
→企業研究の知識を高め、実際に企業研究を行うことでアウトプットも行います。

3 年生：共同企業研究＋輪読 (チーム形式)
・著書『入門　企業分析の手法と考え方』の各章を、担当チームが輪読して発表する。
・上場企業を対象に、チームで共同研究を行う。
→これまで学習してきた定量分析・定性分析を活用して企業研究を行い、発表をします。

4 年生：卒業論文に向けた企業研究 (個人形式)
上場している大企業や業界について研究し、卒業論文を執筆します。

- プロジェクト(その他スケジュール)

企業経営者やキャリアコンサルタントのゲスト講演 (昨年は 3・4 年合同で実施)
→会社経営者や専門家のセミナーを開催し、質問や議論を行う。

企業を調べ・考え・議論し、社会で役立つ力を養っていく。

金子ゼミ

● 研究テーマ

【会計学】財務諸表を用いた企業分析や公会計・財務会計の観点から、広く経済や企業の経営について学びます。

● 活動内容

本年度のゼミは4年生のみの構成となり、会計のテーマに沿った卒業論文の執筆が主な活動内容となっております。

◆ グループワーク（不定期）会計学のテーマについての討論や就活について話します。

◆ ゼミブログ（毎回） 毎回のゼミでの活動をブログで報告します。

◆ 雑誌、新聞記事分析（不定期） 個人で興味のある雑誌や新聞の記事を選定し、作業を行います。

◆ 卒業論文の執筆　個人で卒業論文を執筆し、執筆した卒業論文は、懸賞論文に提出します。

木村ゼミ

研究テーマ

「金融と国際金融」から経済を学ぶ

活動内容

演習Ⅰ(2 年生：男子 8 名　女子 11 名　計 19 名)

・基礎的な金融テキストの輪読

週ごとに数人がプレゼン資料を作成し発表

テキスト内で出た疑問を上級生とグループワーク形式で解決

演習ⅡA・ⅡB(3 年生：男子 12 名　女子 4 名　計 16名)

前期

・国際金融に関して２年生と同様に輪読、発表、グループワークを行う

後期

・グループワークを行い 2 年生から出た疑問の解決

・1 グループ数人のチームを編成し、与えられた金融や国際金融に関するテーマに基づいて共同研究を実施し、12 月のゼミ成果発表会で報告を行う

演習Ⅲ・Ⅳ(4 年生)

・卒業論文の執筆

その他の活動

・2 年次の 3 月、3 年次の 7 月頃に他大学との交流ゼミ(ディベート大会)を実施

・夏休みに合宿を実施

ゼミの様子

櫻井ゼミ

主なゼミ活動は以下の通りです。

演習Ⅰ（2年生）

⑴　文献の輪読

以下の文献の内容報告を分担して行い、グループワーク形式での意見交換を行うことを通して、著者の主張の意義や限界を協力してまとめた。

藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』角川新書、2013年

⑵　地方財政分析

それぞれのゼミ生が自分にとって身近な市区町村の財政の現状と課題をまとめた。

演習IIA・IIB（3年生）

⑴　グループ論文（5点）の執筆

⑵　学習成果の発表：

以下の学外の学術大会においてグループ論文の発表を行った。

・2025年度冬季ジョイントゼミ（青山学院大学にて対面実施）

⑶　就職活動に向けた共同学習

・エントリーシートの作成と意見交換

・模擬面接

演習IIIA・IIIB（4年生）

⑴　卒業論文（21点）の執筆

齊藤ゼミ

【ゼミのテーマ】

マクロ経済学・金融論・日本経済論

【ゼミの活動内容】

二年生

ゼミの冒頭の 30 分は３年生と合同で授業を行う。日本経済新聞をあらかじめ読んでおき、日本経済新聞の記事の内容について発表者２人組が発表をした後、２，３年生全員で議論する。また、ゼミの後半では金融論やマクロ経済学について教科書をもとにまとめ発表をする。その後、発表の内容について議論する。

三年生

前期

日本経済新聞を毎日読み、自分が関心を持った記事について自分の意見を述べて、議論する。

後期

2 年生と同様に、教科書の内容を発表者 2 人組がまとめ発表。その後、発表の内容について議論する。後半 30 分は、2 年生と合同で日本経済新聞の記事について議論する。

【ゼミの成果】

日本経済新聞を毎日読むことで、日本の経済に関するトピック今までより知ることができて日本の経済の状況やニュースを把握することが出来た。また、教科書を読み込み、発表することでマクロ経済学や金融の専門的な知識を身につけることが出来た。

東海林ゼミ

■　テーマ：会計

■　活動内容

【演習Ⅰ（2年生）・演習ⅡA・ⅡB（3年生）共通】

・財務会計について一人一人がテーマを選択し、レジメを作成する。

・出来上がった者から、ゼミの時間にゼミ生の前で授業形式で発表をする。

【演習ⅢA・ⅢB（4年生）】

・会計のテーマに沿ってレジメを作成する。

・自分の卒業論文のテーマを決め、決まった者から卒業論文の作成に取り掛かる。ゼミ内で一度進捗確認。

■　スプリングセッション・サマーセッションについて

今年度は実施なし

田原ゼミ

【田原ゼミと全体の活動】

私たち田原ゼミは、人口減少社会における社会保障やまちづくりについて学んでいます。普段のゼミは 3 学年合同で授業を行っており、下記で紹介するように学年ごとの課題に取り組みながら学びを深めています。

加えて、学外での研究活動や地域連携活動も積極的に行っております。今年度は一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント様との共同研究として渋谷リバーストリートの利用者アンケート調査を、渋谷区住宅政策課様の依頼を受けて住宅確保要配慮者に対する支援活動を行っている居住支援法人を対象とした聞き取り調査を、そして渋谷区公園課様の依頼を受けて渋谷区立氷川の杜公園のリニューアルに向けたワークショップに参加するなどの活動を行いました。また、地域の住民、事業者、行政の方たちとともに渋谷リバーストリートで開催する「渋三さくら祭」の企画、運営にも参画し、地域社会の実情を現場で学んでいます。

【活動内容】

＜2 年生＞

上述の共同研究等の成果の一部を用いて「渋谷区立氷川の杜公園の課題と、魅力的な整備計画」、「渋谷リバーストリートがより使われる空間になるための解決策」についてグループ研究を行い、ゼミ成果発表会で報告しました。あわせて各々がゼミのテーマ(まちづくりや社会保障)に関連した新聞記事を読み込み、レジュメにまとめ、発表をすることでそのテーマに関する知識を深めました。

＜3 年生＞

前期は上述の「渋三さくら祭」の実績や居住支援法人に対する聞き取り調査の結果を分析し、渋谷区役所等で地域や企業・自治体の方々に向けた報告会を行いました。また、2 年生に向けて渋谷川の歴史や再開発の現場を巡る「渋谷巡検」を企画し、後期に実施したほか、各自で卒論テーマ検討や文献調査を行い、報告しました。

＜4 年生＞

社会保障や地域活性化といった分野から各々が関心のあるテーマを選び、卒業論文を執筆しました。今年は、「渋谷区における高齢者への居住支援の実態と課題」「居心地の良い公共空間づくりにおける緑の取り組み」「地域住民の属性別にみた河川への評価～神奈川県鎌倉市砂押川を事例に～」等の論文が作成されました。

中馬ゼミ

本ゼミのテーマ：
『グローバル経済の中で深刻化する経済・社会格差問題』

グローバル経済の展開と密接に関わりつつ深刻化する経済格差や社会的差別の要因・現状分析、ならびにそれらを踏まえた「オルタナティブな経済を模索する動き」の研究を主題として活動してきた。

【2年生】

一年次基礎演習で学んだアカデミックスキルをおさらいし、個人で興味がある論文を探し、書評論文を執筆した。

【3年生】

（前期）ゼミ成果発表会・卒業論文に備えて論文の書き方を学んだ。また、複数のグループに分かれ、一つの論文を要約・考察を執筆し発表をした。

（後期）ゼミ成果発表会に向けたグループテーマに関する研究を行い、ゼミ成果発表会に参加した。その内容を踏まえ、個人で１２０００字程度の自由論文を執筆した。

【4年生】
卒業論文執筆

辻ゼミ

辻ゼミでは、学生の主体的な学習コミュニティの形成を目指して個人研究や文献発表のほか、学内の学生に向けてワークショップを開催した。

【ゼミのテーマ】 人的資源開発・組織開発

【授業内容】

■ ３年生ゼミ(３期生 ： 男子１０名・女子８名、計１８名)

①論文研究

前期は英語文献『Foundation of Human Resource Development』(Swanson・Holton, 2008. Berrett-Koehler Publishers)の一部を取り上げ、担当者が和訳をして発表した。また、卒業論文執筆に向けた研究方法を学ぶワークショップも行った。

②ワークショップ

前期の中盤からは卒業論文執筆に向けた研究手法を学ぶワークショップをグループに分かれて発表した。後期はサーベイフィードバック、組織開発の探究、AI 活用学習実践法に関するワークショップをグループに分かれて発表を行った。各々が発表の中で寸劇やミニゲームなどの工夫を凝らし、その後に活かせるようなワークショップを開催した。

③卒業論文研究

教員やゼミ生同士で相談をしながらテーマや研究計画を立て、先行研究の読み込みをして部分的に執筆にも取り組んだ。（執筆担当：長谷川諒人）

■ ４年生ゼミ（２期生 ： 男子５名・女子１０名、計１７名）※うち１名留学中

①ワークショップ企画

ゼミ外の学生を対象に、組織開発をテーマとしたワークショップ「辻ゼミ 4 年生と考える"はじめてみよう組織開発"-チームはもっと楽しくていい！-」を企画・実施した。チームのあり方を考える場を 1 から設計し、その様子をドキュメンタリーとして記録した。

②通常授業

社会人基礎力の向上を目的としたスキルアップ・ワークショップや、ケーススタディを用いた実践的な学びに取り組んだ。

③卒業論文執筆

4 年間の集大成である卒業論文の完成に向け、ゼミ生同士で個人研究についての議論と相互フィードバックを繰り返した。教員にも随時、フィードバックをもらい、卒業論文を完成させた。（執筆担当：竹野百萌）

手塚ゼミ

■ テーマ

成長戦略研究、ビジネスプラン

■ 演習Ⅰ(2年生：男子10名、女子6名、計18名)

輪読を通して経営戦略に関する知識をインプットし、事例分析をプレゼンという形でアウトプットすることで理論の理解と実践を行った。輪読では網倉・新宅『経営戦略入門』(日本経済新聞出版)の「経営戦略の基礎概念」と「競争戦略」の範囲を読解した。担当者2名が1章ずつ要約したプレゼン資料を事前に作成して発表し、4人班に分かれて発表担当者が提示した論点の討議と全体共有を行い、最後に先生から解説していただいた。演習では輪読で学習したフレームワークを用いて、①差別化戦略とコストリーダーシップ戦略の企業比較、②別途配布された事例資料に基づいた企業分析と新略提案を4人班でプレゼン資料にまとめて発表した。

■ 演習ⅡA・ⅡB　(3年生：男子9名、女子9名、計18名）

前期の前半の演習は、同業界２社の環境分析と新規事業案を１チーム４～５人で２チームずつに分かれて実施した。外部・内部環境をフレームワークで分析し、課題を明らかにしたうえで新サービスを考え、授業時に発表し合った。後半は新しいチーム編成を行い、キャンパスベンチャーグランプリの東京大会に参加し、自分たちで新事業を考え、１からビジネスプランを作成した。

後期の前半は上場企業の中長期戦略を同業と比較し評価した。後半は、メンバーを入れ替えて武蔵大学ビジネスコンテストに参加した。そこでは日々の困りごとからテーマを見つけ、今まで培ってきた知識を活用し、新規事業を作成した。加えて卒業論文に向け、個人でテーマを検討しながら準備を進め始めた。

■ 演習ⅢA・ⅢB(4年生：男子11名、女子7名、計18名)

4年次は、年間を通じ卒業論文の作成に取り組んだ。授業はPowerPoint資料を作成し、質疑応答形式のフィードバックを基に文章化することで進めた。授業内において計6回の発表と仮提出、個別指導、プレ提出を経て期限内提出を目的に卒業論文の作成に励んだ。春休み中には各自が研究したいテーマに関する事前調査を行い、初回授業発表を行った。前期には夏休みの本格的な調査に向けて研究目的や研究課題のブラッシュアップを行った。その間、テーマを変更する者もいたが計4回の発表によりテーマを確定させた。後期には、夏休みの課題(6,000字程度)を基に前期と同様に発表と文章化を繰り返した。12月頃より個別指導によって卒業論文の仕上げ作業を進めた。

中田ゼミ

中田ゼミは、前期は2学年合同、後期は3学年合同でゼミを行っています。2025年度の各学年の活動実績は以下のとおりです。

（1） 演習I（2年生・後期）

◆ りそな銀行主催「りそなNextGenアイデアコンテスト」への参加
◆ 企業分析
◆ 根岸ゼミ・宮下ゼミとの合同ゼミ（内容：りそな銀行主催ビジコンの発表）
◆ 吉野ゼミとの合同ゼミ（内容：企業分析）
◆ 教科書発表：①『世界一楽しい決算書の読み方（実践編）』（大手町のランダムウォーカー著、KADOKAWA出版）、②『この1冊ですべてわかる新版経営戦略の基本』（日本総合研究所 経営戦略研究会著、日本実業出版社）

外部コンテストの参加、他ゼミとの合同プレゼンなど良い経験を積むことができました。教科書を読み込み、発表を行うことで、既知の知識の復習と、今後のゼミ活動における知識を修得することができました。

（2） 演習IIA・IIB（3年生）

◆ 企業価値評価
◆ 「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加
◆ ３大学インターゼミへの参加（高崎経済大学、武蔵大学と）
◆ 経済学部ゼミ成果発表会への参加
◆ 『の～びのび経済』グループ論文の執筆

残余利益モデルを用いた企業価値評価のやり方を学び、企業分析を行いました。産学チャレンジプログラムでは5チームで参加し、3チームが入賞しました（最優秀賞1チーム、優秀賞2チーム）。インターゼミ・ゼミ成果発表会では、企業分析や不正会計などの発表を行いました。また、その内容をグループ論文として『の～びのび経済』に投稿しました。

（3） 演習IIIA・IIIB（4年生）

◆ゼミ内プレゼン大会（3年生が投票）
◆卒業論文執筆

前期は就職活動を行いながら、テーマの選定をし、卒業論文の執筆を行いました。随時グループ内で報告し合いながら、ゼミ内でも適宜全体報告をしました。

（4） ゼミ合宿（2023年度スプセ、2024年度サマセ）

◆ビジネスゲーム

・スプセとサマセは、大学での対面実施と合宿とで行いました。（合宿は、スプセ、サマセとも1泊2日）

根岸ゼミ

研究テーマ

根岸ゼミでは、政府部門に軸を置き、現代社会における社会経済問題を解決するという観点から研究を進めています。基本的に２年生、３年生はグループ単位で学外のビジネスコンテスト等に出場するなどの活動をし、グループ論文を作成します。４年生は個人で卒業論文を作成します。

演習Ⅰ(２年生後期)

「2025 りそな・EXPO2025 SDGs アイデアコンテスト」への参加 2025 りそな・ EXPO2025 SDGs アイデアコンテストでは、「地域課題解決×イノベーション」が課題テーマでした。ゼミ生が４人、４チームに分かれ、チームごとに課題テーマについて解決策を考案し、資料を提出しました。またゼミ活動で初めて参加するビジネスコンテストになりました。また 3 ゼミ発表会への参加もしました。

演習ⅡAB(３年生)

(１) ３つのビジネスコンテストに参加

各班のそれぞれのコンテスト 1 つと一般社団法人 ICT マネジメント研究会・学生小論文アワード、産学チャレンジプログラムの 2 つの合計 3 つに参加しました。ICT コンテストでは 2 班が石井賞を受賞することが出来ました。それぞれ出場したコンテストでは私の提言に出場した班が最優秀賞を受賞、産学チャレンジプログラムでは 1 班が優秀賞を受賞することが出来ました。

(２) 卒業論文への取り組み

3 年次春休み中に目次、はじめに、1 章までを完成させることを目標に進めています。

毎授業 3 人ずつ発表して互いに批評しあうことで完成度をたかめています。

演習ⅢAB(4 年生)

根岸ゼミでは第１章を３年次に書き終えるため、４年次は第２章から取り組みます。卒業論文の発表は、すべてワードファイルで文章を作って行います。発表者は発表日２日前に作成した文章をゼミ全体に共有をします。ゼミ生全員が共有された資料を事前に読み、ゼミでは質疑応答を中心に議論を行います。４年生の一年間、卒論作成、質疑応答を繰り返すことで、発表者の卒論の質が上がるだけでなく、質問者側も成長します。 卒論作成のプロセスが根岸ゼミでの学びの醍醐味です。

芳賀ゼミ

芳賀ゼミでは、「消費者視点」でのマーケティング問題について学んでいきます。消費者がなぜ買うのか、いつ買うのか、何を買うのか、どのように買うのかについて「消費者行動論」といった心理学と関連の深い分野について、グループワークを中心に研究を深めていきます。2025年度の活動に関しては以下の通りです。

【研究テーマ】　マーケティング：消費者行動論
【基本活動】　木曜４限・５限・６限

【活動内容】

● 演習Ⅰ（2年生：５期生　18名）

主にHADというフリーの統計分析用プログラムのソフトを用いて統計的な分析方法を 学んだ。毎回習った分析方法ごとにグループワークを行い、アンケートを実施した後に分析を行い発表するということを3週間ごとに行った。具体的な内容としては回帰分析、クラスター分析などが挙げられる。分析テーマも多種多様で、大学生の成績という勉学に関するものからアルバイトや趣味など日常生活に関わるものなど、ゼミ生の興味関心のあるテーマで分析が行われた。その後の発表では先生からフィードバックをもらい、より一層理解を深めることが出来た。今後の産学連携でより発展的な分析に活かしていきたい。

● 演習ⅡA・ⅡB（3年生：４期生 20名）

前期はグループごとにアカデミックな研究に取り組んだ。具体的な内容としては、興味のある研究テーマをアンケートで集計し、それが一致した班で研究を進めた。その班で日常の中や、論文を読み進めていく上で発見された疑問や課題に対して、アンケートを実施し、HADというフリーの統計分析用プログラムのソフトを用いて、分析を行いパワーポイントにまとめた。最終的には他大学との合同ゼミで発表を行い、研究を終了した。
後期は産学連携を実施し、株式会社アイル様と共同で研究に取り組んだ。「ファン行動の可視化とファン創出支援の仕組み」をテーマに、株式会社アイル様の顧客情報一元管理サービス「CROSS POINT（クロスポイント）」を活用した、ファン創出支援施策と新機能を企画・提案した。前期と同じく分析を用いた研究を行い、中間発表では株式会社アイルに発表をした。その中でいただいたフィードバックをもとに後半の研究へと繋げていった。

● 演習ⅡA・ⅡB（4年生：3期生　19名）

前期および後期にかけて卒業論文に向けての執筆についての各プロセスを経て、卒業論文に取り組んだ

濱田ゼミ

研究テーマ：行動経済学・ゲーム理論

〈2・3年次〉

3回の授業で1プロジェクトを実施（半期で4プロジェクト）

・各自でテーマ設定→モデル/実験デザイン作成→グループ内発表

・グループで成果物を作成し、クラス全体で発表

・学期末：成果物から1つを選び、改良してレポート化

＜4年次＞

・個人で卒業研究を実施

・理論分析・模擬実験など、各自の方法で研究を進める

・定期的に進捗報告を行い、ゼミ全体で議論

林ゼミ

【ゼミのテーマ】
医療経済学：医療を通して日本の経済とビジネスを学ぼう！

【活動内容】
林ゼミでは、医療を切り口に現代日本社会が抱える問題について理解を深め、経済学を通して思考・分析する力を高めることを目的に、理論と実践の両面からさまざまな取り組みを行っている。主な内容は以下の通りである。

- 2 年生の内容
  医療経済学の基本をきちんと学ぶことを目的とし、林行成（2025 年）『知っておきたい医療リテラシー：日本の医療の効率と公平を問う』日本評論社を輪読した。担当者がプレゼンし、メンバー全員で議論をしながら読み進め、日本の医療と経済の関係性と問題について理解を深めた。

- 3 年生の内容
  経済学によって医療問題をどう捉えられるかをテーマに、細谷・増原・林（2018 年）「医療経済学 15 講」新世社を輪読した。より医療制度の知識を高め、医療問題への経済学的な分析力を深めるべく、メンバー全員で議論を展開した。

- 学会参加、病院見学、企業講演会の実施
  ゼミ活動の一環として、希望者のみだが、全国自治体病院学会への参加、湖南メディカルコンソーシアムのヒアリング調査を実施した。また、3 年生に対しては、医療ビジネスの実際や就職意識を高める目的で、中外製薬株式会社、株式会社エラン、株式会社 Mirai Arc による講演会を実施した。

藤山ゼミ

藤山ゼミでは学術的な本の読み方を身に付けつつ、専門的知識を習得するための輪読を行った。学んだフレームワークや理論を応用するための研究プロジェクトも実施された。

◆テーマ

組織論、戦略論、イノベーション論

◆ゼミ内容

輪読に関しては、前期は 3,4 年生が合同で、後期は 2,3 年生が合同で行った。4 年生は年間通じた卒論の研究発表を行った。3 年生は前期に 2 年生は後期に各自での研究と進捗報告が行われた。加えて、3 年生は前期から通して外部でのビジネスコンテストに参加した。

●前期

輪読に関しては、3,4 年生合同で『ブランディングの科学』(バイロンシャープ 著,前平謙二 訳(2018),朝日新聞出版)毎週 1 章ずつ輪読した。ゼミ生全員が書籍を読み、該当章の 要約と展開、批判を考えてくることで、理論の学修と現実の見方の習熟を進めた。

研究プロジェクトに関しては、4 年生は卒業論文の研究を行った。週に 4 人程度が報告 担当となり、ワードにまとめた進捗をゼミで発表した。それに対してゼミ生全員がコメントをすることがルールとされ、様々なコメントを受けながら論文を改善することに取り組んだ。3 年生は 2 年生後期より進めている研究プロジェクト(事例分析)の研究報告を各班、3 週に 1 回程度のペースでパワーポイントを使って行い、それに対して他の班がコメントや質問をした。それが終わった後は、ビジネスコンテストに向けて、案出しを開始し準備を始めた。

●後期

輪読に関しては、2,3 年生が合同で『リサーチクエスチョンとは何か？』（佐藤郁哉(2024),筑摩書房）を毎週 2 章ずつ輪読し、それを読み終えた後は『集団と組織の社会学集合体アイデンティティのダイナミクス』（山田真茂留(2017)，世界思想社）を毎週 1 章ずつ輪読した。授業の進め方は前期と同様である。

研究プロジェクトに関しては、2 年生は 5 月度完成を目指した研究を進め、中間報告の教授や 2，3 年生からアドバイスをもらい改善に努めた。3 年生は、12 月開催のビジネスコンテストの決勝戦に向けた企画を構成することや、プレゼン資料の作成に努めた。ビジネスコンテストが終わった後は、卒業論文の頭出しを行った。4 年生は 3 限と 4 限にかけて卒業論文の研究発表を行った。授業の進め方は前期と同様である。

星野ゼミ

テーマ　『経営戦略や事業創造を中心とした経営学』

2 年生は輪読を中心にグループワークなどを行った。3 年生は輪読、神奈川産学チャレンジ、ゼミ成果発表会では異なったメンバーでのグループを作成し、活動した。4 年生は就職活動と並行しながら卒業論文の作成・発表を行った。

活動内容

2 年　　6 限　　輪読　「小倉昌男　経営学」

３年　　4 限　　輪読　「ケースに学ぶ経営学」

神奈川産学チャレンジ

ゼミ成果発表会

就職活動・卒業論文について

4 年　　5 限　　卒業論文の作成・発表

細井ゼミ

- テーマ
  国際経済、国際経営

- 活動内容

□ 海外合宿
  3年生、4年生でインドに行き、海外合宿を行いました。普段書籍や論文等で学んでいる事を実際に現地に訪れて企業の方からお話を聞くことによって理解を深めました。

□ 演習Ⅰ（2年生）
  アジア経済に関する英語文献を輪読し、和訳および要約を行ったうえで発表を行いました。発表後には、教員と学生からのフィードバックや質疑応答を通して理解を深めながら、文献の読解を進めました。授業最終日には、卒業論文の執筆を見据え、自身が研究したいテーマについて発表を行いました。

□ 演習ⅡA・ⅡB（3年生）
  各自の卒業論文のテーマに関連する文献を読み、要約と発表を行いました。学生と教員からのフィードバッグを踏まえ、卒業論文の大まかな構成や研究の方向性を検討しました。後期からは、自ら調べた文献の紹介や卒業論文の構成案について発表を行い、卒業論文の執筆を本格的に進めました。授業最終日には、全体の見直しのため、約1万字の中間論文を提出しました。

□ 演習ⅢA・ⅢB（4年生）
  中間論文で指摘された改善点を踏まえ、卒業論文の執筆に取り組みました。発表の機会ごとに教員や学生からフィードバックを受け、それらを反映させながら、卒業論文の完成度を高めていきました。

※毎回の活動は、全学年合同で行います。

水無田ゼミ

研究内容

２年生は、メディア論、消費行動論、ダイバーシティ、格差社会、そして音楽、漫画などのサブカルチャーといった社会活動に関わる様々な分野の研究を行った。3 年生は、ゼミ生各自が、興味ある分野を選定し、論文を進め、４年生は、卒論の執筆に向けて活動に取り組んだ。

ゼミ活動

【2 年生】

・先生が講義を行い、講義後に生徒で意見交換を行う。

講義内容(上記の研究内容で述べた分野)

・テキスト読解

ゼミ生が各自ページを分担し、読解を行い、重要だと思ったポイントや意見をスライドにまとめ、10 分間で発表を行う。

テキスト...水無田気流(2021)『多様な社会はなぜ難しいか　　日本の「ダイバーシティ進化論」』日本経済新聞出版

・各自の研究テーマに沿ってゼミレポート作成

【3 年生】

・Academic Writing を通して、研究計画書の作成を行った。

・ゼミ論報告　short version

・ゼミ論報告　long version

・各自のテーマに沿ってゼミ論文作成

【４年生】

・卒論報告　short version

・卒論報告　long version

・各自のテーマに沿って卒業論文作成

課外活動

中原中也の会第 28 回研究集会聴講

宮下ゼミ

■ テーマ

マーケティングと消費心理

宮下ゼミでは、国内外の企業事例をもとに、現代のマーケティングおよび顧客の心理について学んでいます。理論の理解にとどまらず、広告制作や企画立案などの実践的なアウトプットを通して、「考えて、形にする力」を養うことを目的としています。

■人数/活動日

【4年生】26名/月曜2限

【3年生】27名/月曜3限

【2年生】26名/月曜6限

※通常は学年別に活動を行い、半期に2〜3回程度、複数学年合同で研究報告会を実施しています。

■内容

【4年生】

卒業論文の執筆を中心に、研究の集大成に取り組みました。

・マーケティングをテーマとした卒業論文の執筆

・「日経MJ」を用いた時事的なマーケティング事例の発表

・学年間の知見共有(卒業生を招いた講話・後輩に向けた就職活動報告会の実施)

【3年生】

理論と実践の往復を意識し、より専門的なマーケティング分析に取り組みました。

・様々な人数編成で、企画立案型および広告制作の外部ビジネスコンテストに参加

・「日経MJ」を用いたマーケティング事例の要約・発表

・マーケティング関連資格取得に向けた学習・演習

【2年生】

基礎的なマーケティング知識の習得と、アウトプットの初期段階に重点を置いて活動しました。

・個人及びグループで学内のコンテストと外部のビジネスコンテストに参加

山本ゼミ

●研究テーマ：経済地理学・都市地理学

●ゼミ活動日：毎週木曜日５限・６限

●活動内容

◆全体の活動

山本ゼミは、2 年生から 4 年生まで合同で指導しているゼミです。5 時限目には主に 3・4 年生が各自の卒業論文の進捗を報告し、論文構成や調査方法（インタビュー・アンケート等）に関して指導教員の山本先生からコメントや指導を受けます。
受けた指導の内容を踏まえ、各自が論文の修正・追加を行います。6 時限目には2 年生による論文発表を実施し、ゼミの研究テーマである経済地理学に関する基礎理解の定着と質疑応答を行います。

◆ 2 年生(演習Ⅰ)

2 年生は、経済地理学の基礎理解を目的として指定学術雑誌から論文を選定し、専門用語および当該分野における現状の課題について学習しました。
学習の成果を踏まえて要点を整理し、レジュメおよびスライドを作成して、論文について発表を行いました。発表後は指導教員および他のゼミ生からの質疑応答・講評を受け、今後の課題や研究の見解を考察しました。

◆ 3 年生(演習ⅡA・B)

3 年生は、前年度の学習成果を基に卒業論文の研究テーマを決定し、執筆を開始しました。授業内外で指導教員と進捗を共有し、指導・コメントを受けながら研究を進めました。
また、2 年生の発表に際して司会を務め、論文選定や資料作成に関する助言を行うことで後輩の学習支援を行うとともに、フィードバックの場を提供しゼミ全体の学習効果の向上に寄与しました。

◆ 4 年生(演習ⅢA・B)

4 年生は就職活動を行いながら、それぞれの調査対象地域にてアンケート調査やインタビュー調査を実施し、第一資料の収集を行いました。
収集したデータに基づき分析・考察を深め、指導教員の助言を受けながら卒業論文の作成・完成を目指しました。

吉野ゼミ

研究テーマ　財務会計

活動内容

演習Ⅰ（2年生）

(1) 文献の輪読

各ゼミ生が指定された財務会計に関する文献を読み込み、担当箇所をまとめて報告を行った。質疑応答を通じて、理論の基礎的な理解を深めた。

(2) 合同ゼミでの発表

4つのグループに分かれ、各々が選定したテーマに基づき企業の財務諸表分析を行った。分析結果を合同ゼミにて発表し、他ゼミとの交流を通して多角的な視点や実務的な分析手法を学んだ。

演習Ⅱ（3年生）

(1) 財務会計の教科書の輪読

財務会計の教科書を輪読し、より専門的かつ体系的な知識の習得に努めた。

(2) 卒業論文の執筆

卒業論文の執筆に向け、各々の関心領域に関する参考文献の収集や先行研究の整理を行った。テーマの具体化を進め、本格的な執筆活動に取り組んだ。